

特集 注目の内外美容商材

類似体4種類で構成されるが、このアナトー由来のトコトリエノールは、類似体の中で最も抗酸化能の高い δ トコトリエノール90%、 γ トコトリエノール10%で構成され、トコトリエノールの効能効果を低減させる α トコフェロールを含まないのが特長。海外ではDNA損傷防止、抗炎症効果、冠動脈疾患予防、フリーラジカル減少、LDLコレステロール予防、がん予防、皮膚の色素沈着防止などが研究されている。「包接化することで安定が高まり、吸収性も高まる。トコトリエノールはトコフェロールよりも優先的に肌組織に蓄積される。特にデルタトコトリエノールCD包接体にする事でメチル置換基が少なく立体障害が小さいため、より肌に深く浸透し、一度酸化されても再生しやすい特質から高い肌の保護作用が期待される。またメラニンの合成抑制効果も期待できる優れた美肌素材」という。すでにこの原料による大阪市立大学の西川教授との共同研究で、ストレス耐性を強化することで線虫の延命効果が期待できることを確認済み。今夏、米国で行われた国際トコトリエノール学会で発表している。「このほか神経細胞保護作用や放射線障害の低減・改善効果なども期待できることから幅広い提案を進めていく」としている。

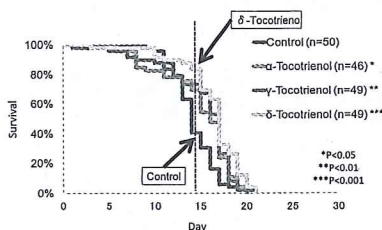
効果が期待できる特徴を持つ。今後、化粧品OEM提案の際にもサンプルの商品として活用する考えだ。

● 包接化した新型トコトリエノール、美肌などで訴求

シクロケム

● (株)シクロケム(本社・神戸市)は、植物のアナトー豆から抽出された新型トコトリエノールを独自の包接化技術で安定させた原料『デルタトコトリエノールCD包接体』のOEM業務を開始した。今後、美肌訴求や脳機能改善で提案を進めていく。

トコトリエノールは、 α (アルファ)、 β (ベータ)、 γ (ガンマ)、 δ (デルタ)線虫の寿命に及ぼすトコトリエノール各型の影響



線虫の寿命に及ぼすトコトリエノール各型の影響: 15日後のコントロール群の生存率は40%であったが δ トコトリエノール群は82%生存している。

同社はこのほか、昨年より独自技術を生かし肌への吸収性を高めた新たなCoQ10ならびR型 α -リポ酸化化粧品OEMの展開を本格的に開始した。加齢によるほうれい線の改善効果の研究を医療機関とも進めるなどデータの構築も進めている。今秋にはこうした技術を活用したサイエンスコスメティック『シクロラボラトリ・トリプルエッセンス』を関連会社の(株)コサナから発売した。商品は同社独自の技術を生かしCoQ10やR- α -リポ酸、レチノールを配合、光老化や細胞の酸化、乾燥、皮膚の糖化に対応しシミ、シワの両方に